J-STAGE NEWS

J-STAGEニュース

No. 32

電子ジャーナルの最新情報をおとどけするJ-STAGE機関紙

ISSN 1346-1990

2012年6月30日発行

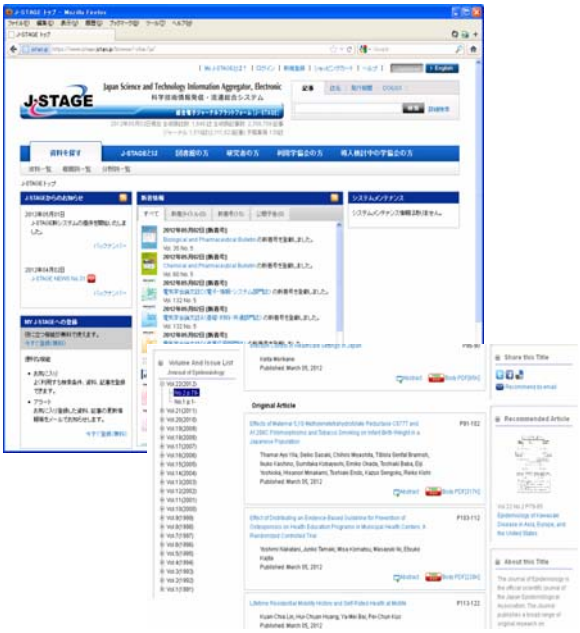
独立行政法人
科学技術振興機構

今号の記事：

●J-STAGE スタートに際して
●学術情報XML推進協議会の設立について
●COUNTERレポートについて
●シリーズ学会訪問「日本教育心理学会」様
●第３回日中韓科学技術情報機関会合（KCJ 会合）
●CrossCheck 説明会　　ほか

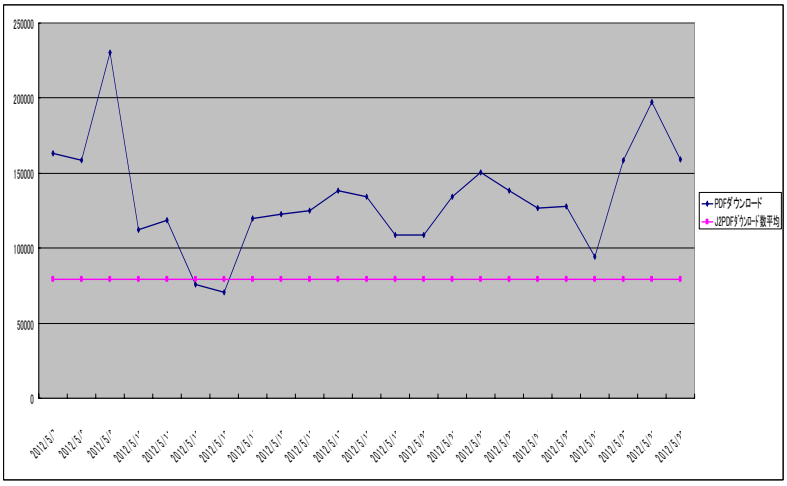
J-STAGE3スタートに際して

新J-STAGE（J-STAGE3）が2012年5月1日にスタートしました。当初、4月を予定していましたが、1ヶ月遅らせてのスタートとなり、学協会様を初めご利用者の皆様にはご迷惑をおかけしました。また開発期間の短縮から先送りした一部の機能を今年度以降順次、拡張により機能アップを図ってまいります。



新システムではXML化、ユーザインタフェースの改善を大きな柱としてかかげ、特に画面についてはジャーナルの顔と言えるカバーアートを各号毎に登載可能とするなど、ビジュアルなデザインを心がけました。また、Journal@rchiveと統合し、創刊号からカレントまで一つの画面で表示、検索することが可能となりました。

現在、J-STAGE公開ジャーナル数は850誌を越えていますがJ-STAGE3から登載というジャーナルが百数十誌予定されており、既に準備に入っているところです。さらにJ-STAGE3に先駆け、4月下旬にはCrossCheckの運用を開始しています。また、同時に開発を行いましたジャパンリンクセンター(JaLC)は3月にRA(DOI※登録機関)となり、この秋にはいよいよ、J-STAGE登載論文を含め、日本の和文論文を中心に日本独自のDOIを付与します。



J-STAGE3は生まれたばかりで、まだまだ改善の余地があり、今後も機能アップを重ねて参ります。J-STAGEとJaLCの両輪で電子化促進と日本の学術誌の情報発信・流通促進、学術出版業界の活性化を進めていきます。最後に5/7～29の本文PDFダウンロード数を左図に示します。従来の2～2.5倍を記録しました。今後とも、皆様方の熱いご支援とご指導により、一丸となって頑張ってまいります。

（JST　知識基盤情報部　電子ジャーナル担当　宮川　謹至）

※ DOI(デジタルオブジェクト識別子)：ネット上の論文記事等コンテンツに付与される国際的な識別子（符号）。掲載先が変わるなどしても、DOIを用いて永続的なアクセス(リンク)が可能になる。

学術情報XML推進協議会設立

6 月 28 日、電子ジャーナルの関係者が参集し、学術情報 XML 推進協議会の設立総会が開催されました。日本の学術情報発信の高度化のため、電子ジャーナルのXML化を推進することを設立趣旨としています。呼びかけ人は、小宮山恒敏（小宮山印刷工業株式会社)、時実象一（愛知大学)、中西秀彦（中西印刷株式会社)、橋本勝美（日本疫学会)、林和弘（科学技術政策研究所)、宮川謹至（科学技術振興機構）の各氏（50 音順）です。会長には時実象一氏が選出されました。

XML を採用することにより、「(1) 論文データが構造化され、電子ジャーナルにおけるプレゼンテーションの高度化が実現する、(2) リンクやセマンティック・タグの付与、図表など論文要素単位の配信、など加工・付加価値化が図れる、(3) メタデータの交換、アーカイブなど、標準化による流通促進がおこなわれる、などの利点が得られる。」ことが設立趣意書に掲げられています。

これまで、日本での XML の利用は、理系英文誌のごく一部に限られてきました。しかし、J-STAGE が XML を採用することとなり、また旧 NLM DTD が発展した XML 規格 JATS (Journal Article Tag Suite) が日本語も含めた多言語対応をするなど、機は熟しつつあると言えます。推進協議会は、学術情報における XML の推進を図るべきことを訴え、何が XML の普及の障害となっているか、何をもってすれば XML が普及しうるのかを問い、こうした障害をひとつひとつ取り除いていくことを目的としていると述べています。

推進協議会に関心のある方、参加を希望される方は、上記呼びかけ人にご連絡ください。

J-STAGE における XML 記述例（著者名）

```
<contrib contrib-type="author">
  <name-alternatives>
    <name name-style="eastern" xml:lang="ja">
    <surname>科学</surname>
    <given-names>太郎</given-names>
  </name>
  <name name-style="western" xml:lang="en">
    <surname>Kagaku</surname>
    <given-names>Taro</given-names>
  </name>
  <name name-style="eastern" xml:lang="ja-Kana">
    <surname>カガク</surname>
    <given-names>タロウ</given-names>
  </name>
</name-alternatives>
</contrib>
```

[参考文献] 時実 象一, 井津井 豪, 近藤 裕治, 鶴貝 和樹, 三上 修, 野沢 孝一, 堀内 和彦, 大山 敬三, 家入 千晶, 小宮山恒敏, 稲田 隆, 竹中 義朗, 黒見 英利, 亀井 賢二, 楠 健一, 中西 秀彦, 林 和弘, 佐藤 博. NLM DTD から JATS へ 日本語学術論文の XML 編集. 情報管理. 2011, 54(9), 555-567.

ご存知でしたか!?　COUNTERレポート、やってます。

J－STAGEでは、2006 年より COUNTER 準拠の統計レポート提供サービスを実施しています。

COUNTER は、Counting Online Usage of NeTworked Electronic Resources の略称で、電子サービスの利用統計についての国際基準です。図書館などが購読契約する雑誌やデータベースの利用状況を比較しやすい形でお届けすることを目的としており、多くの海外学術出版社が COUNTER 対応の統計データを提供しています。J-STAGE は COUNTER Code of Practice Release 3 の Journal Report 1 に準拠しています。J-STAGE 登載雑誌について、お申し込み時に設定頂いた自機関の IP アドレスからの利用状況のレポート（毎月の PDF ダウンロード数）が翌月末にダウンロードでき、購読管理などにお役に立ちます。詳細は J-STAGE ホームページ: https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/AY04S190_ja.html を参照ください。

〔シリーズ学会訪問〕～J-STAGE 利用学協会様の声～

［日本教育心理学会様］

今回は、日本教育心理学会の『教育心理学研究』の服部編集委員長（筑波大学教授）と南風原副委員長（東京大学教授）を訪問させていただきました。

日本教育心理学会様は、『教育心理学研究』と『教育心理学年報』の2誌をJ-STAGEで公開されています。

― まず、お二人のお役目と学会、学会誌についてご紹介ください。

『教育心理学研究』の論文審査は常任編集委員会で採否について最終決定していますが、その常任編集委員会の運営を正副委員長で担当しています。また、委員会の運営方法、編集方針について検討することも任務の一つです。

本学会は、教育心理学に関する研究発表を促進することを目的に、1952 年に日本教育心理学協会として設立し、1959 年に日本教育心理学会となりました。会員は約 7,000 名で 50 近い心理学系の学会の中でも規模の大きな学会です。小・中学校、高校の先生も会員になっています。

『教育心理学研究』は広く教育にかかわる問題について心理学的な視点と方法で研究した成果を発信しています。和文誌として発刊しましたが、現在は英語論文の投稿も受け付けています。一方、『教育心理学年報』のほうは、その年に教育心理学の各領域で発表された研究のレビュー論文を中心に構成されています。

編集委員長
筑波大学教授
服部　環　先生

副編集委員長
東京大学教授
南風原　朝和　先生

― 電子ジャーナル化への取組みと J-STAGE をご利用になったきっかけ(動機)は何でしょうか。

本学会では、会員だけでなく非会員にも広く研究成果を共有していただくことが必要と考えて、早くから論文の電子化・無料公開を始めました。もともとは CiNii に登載していただいていましたが、国内外からのキーワードによる論文検索をより容易にして、本学会の論文にもっとアクセスしてもらえるようにするために、J-STAGE に移行することとしました。今後は、早い時期に電子投稿システムを導入して、論文の投稿から審査までのプロセスを電子化したいと考えています。

―J-STAGE をご利用されていかがでしょうか。J-STAGE3 がスタートしましたが、良い点・悪い点、期待することは何でしょうか。

教育心理学は非常に広い分野を扱いますが、電子化によってディシプリンの異なる研究者からも閲覧されるようになったことは非常に有益なことです。今後、面接記録やコンピュータ・プログラムのような大部の補足資料を電子的にのみ公開する電子付録も活用したいと考えており、これにより論文のありよう自体が変わってくる可能性があります。

要望としては、大会発表予稿集のようなものもどんどん登載してほしいと思います。タイトルだけでも収録して、ともかくJ-STAGEにさえ行けば、たとえそこに全文がなくてもタイトルなどから必要な文献にたどり着けるような、一般の検索エンジンのような間口の広さがほしいです。

課題点としては、引用文献リンク情報画面など、一部に分かりにくい画面があることが挙げられます。必要な情報がもっと一目でわかるようになるとよいと思います。マニュアルなどもやや専門的で難解な部分があるので、こうしたシステム本体以外の面でもよりわかりやすい情報提供を希望します。

― 最近の学協会を巡る状勢についてはどのように思われますか。（海外の商業出版社へ移っていく学会について）

海外出版社から発行すると、流通面ではメリットがあると思いますが、その一方、もし財政的な理由でアクセス制限や一部有料化がなされると、会員・非会員を問わず研究成果を広く共有していただくということが難しくなります。現時点では、日本教育心理学会で出版している2誌について、海外出版社等に委ねるといったことは考えていません。

―ありがとうございました。

ご指摘については継続して検討いたします。使いやすいシステムとなるよう頑張って参ります。

貴学会のご活躍をお祈りいたします。

第 3 回日中韓科学技術情報機関会合（KCJ 会合）

2012 年 5 月 14 日～5 月 15 日

日中韓三カ国の科学技術情報関連機関が定期的に会し、情報交換や相互協力について協議する標記会合が、5月韓国の研究学園都市デジュン市で開催されました。本会合はこれまで東京(2010 年)および北京(2011 年)で開催されています。会合には設立 50 周年を迎えた韓国科学技術情報院(KISTI)、中国科学技術信息研究所(ISTIC)、そして日本からは JST が参加し、電子ジャーナル、各種識別子、情報基盤整備などの分野を中心に新しいプロジェクトの紹介や課題について情報交換を行いました。

韓国からは、韓国学術誌の国際化戦略を支える改良投稿審査システム(ACOMS)の機能紹介のほか、優良誌の論文にDOIを付与して国際的な流通促進を目指していることが紹介されました。会合の資料と合わせて DOI 付与が行われている143誌を紹介するカラーのカタログ誌“DOI Journals”が配付され、DOIが付与されていることが一つのステータスとなっていることがうかがわれました。また、国際・国内両誌に30の評価項目を用いて KISTI の独自指標を作成し、品質向上を図っているとの発表もありました。中国、日本に続き、韓国でも DOI への取り組みが行われていることも紹介されました。KISTI は研究データの DOI 登録機関である DataCite の準会員であり、研究データの DOI 登録にも取り組んでいるそうです。

また、KISTI は先進的なセマンティック Web の技術サービス“InSciTe”を開発しましたが、今回はこれを用いて論文及び特許 7,000 万件を対象に研究開発の動向分析や予測を行うプロジェクトの紹介もされました。

中国からも、大規模セマンティックコンピューティング技術を通して科学技術動向分析を行う取り組み、論文や特許などの情報ソースを分析して、情報システムのナビゲーション性能を向上させる取り組み、および知識組織化技術を応用した取り組みなどが紹介されました。また論文評価の手法の研究についても PageRank を改善する最新の研究が紹介されました。中国国内のオープンアクセスに関して新しい取り組みを行うことについても言及されました。

JST からは、J-STAGE3、ジャパンリンクセンター、J-GLOBAL foresight や NBDC（National Bioscience Database Center）等を紹介するとともに、すでに始まっている両国との電子ジャーナル分野での協力に加え、今後の具体的な協力可能性のある事項について話し合いを行いました。JST では電子ジャーナルやセマンティックウェブ等の学術情報流通の分野でアジアにおける国際協力をおし進めていきたいと考えています。

CrossCheck 説明会

2012 年 6 月 18 日

CrossCheck は、iParadigms 社の iThenticate をベースに CrossRef がオプションサービスとして提供している剽窃検知ツールです。今年度から J-STAGE 登載誌でもご利用いただけるようになり、説明会では、トライアルにご協力いただいた日本疫学会さまから、導入事例についての講演をしていただきました。主に英文論文向けのツールですが、1 論文あたり 0.75 米ドルでご利用いただけます。

ご利用条件や申込み方法、当日の講演資料などは下記 J-STAGE ホームページに掲載中です。

説明会・セミナーのご案内　https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/AY04S260_ja.html
CrossCheck について　https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/AY04S470_ja.html

編集後記

♪5月22日に東京の新名所・東京スカイツリーがオープンしましたね。みんなが上を向いて歩くことで、うつむきがちな日本人みんなを明るい気分に包み込んでほしいなと、思う今日この頃です。余談ですが、タワー(塔)には人々の精神的な支え、という意味合いもあるそうで、お釈迦様の遺骨を納める五重の塔などは信仰の対象として、人々に安らぎと希望を与えていたそうです。暗いニュースが多い昨今ですが、新しいランドマークがみんなへ安らぎを振りまくことで、明るいニュースが増えたらいいな、と思います。J-STAGEも天高く伸びるタワーのように、ご利用の皆様に安らぎと希望を与えられるそんな存在になれるよう頑張ります。（貴）

J-STAGE ニュース No. 32　2012 年 6 月 30 日

編集：　独立行政法人 科学技術振興機構（JST）
知識基盤情報部 電子ジャーナル担当
発行人　知識基盤情報部長　大倉　克美
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ
電話　03-5214-8837（ダイヤルイン）
E-MAIL　contact@jstage.jst.go.jp

http://www.jstage.jst.go.jp/

J-STAGE および J-STAGE ニュースに関するご意見・ご質問をお待ちしております。
JST 知識基盤情報部　電子ジャーナル担当（contact@jstage. jst. go. jp）

Follow J-STAGE on twitter @jstage_ej